

ブドウ栽培における簡易雨よけ設置の効果

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：ブドウ

技術の概要

短梢剪定栽培を中心に、トンネルメッシュを利用した簡易雨よけを、生育初期から設置することで、様々な利点が得られる。

重要病害の晩腐病は、雨媒伝染性であるため、物理的防除法として、発生を抑制できる。

また、生育が露地条件よりも早まるため、栽培管理作業の労力分散も可能となる。

あわせて、降雨によるジベレリン再処理の心配がなく、計画的に作業を進めることができる。

さらに、「シャインマスカット」や「ピオーネ」では、果粒肥大の促進効果が認められる。



ブドウ晩腐病



トンネルメッシュを利用した簡易雨よけ

導入の留意点

・栽培地域や品種に注意

栽培地域や品種により、ビニール被覆による高温で着色障害の発生する恐れがあるため必要に応じて被覆を除去する。

効果

◎晩腐病の大幅な発病抑制

特に、病原菌の感染期である梅雨期に雨がが多い年には、発病抑制効果が顕著である。

◎生育促進による労力分散

発芽促進剤も組み合わせることで、露地栽培に比較して生育が早まり、労力の分散ができる。

◎降雨の影響減少による作業の計画性の向上

ジベレリン処理の効果が安定し、降雨による再処理が不要となるため、作業が計画的に実施できる。

◎果粒肥大の促進効果

開花期の温度も確保できるため、果粒重が増加し、玉張りの良い果房が生産可能となる。

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●価格帯

約80万円/10a（資材費のみ）

●普及の状況

平成24年～令和3年まで累計約50ha（山梨県内の実績）

関連情報

・簡易雨よけの設置やカサかけによるブドウ晩腐病の防除効果
(山梨県果樹試験場令和2年度研究成果情報)

・ブドウ「シャインマスカット」「ピオーネ」における簡易雨よけ設置の効果
(山梨県果樹試験場平成29年度研究成果情報)



べと病耐病性を有しワインの香りが豊かな白ワイン用ブドウ新品種「モンドブリエ」の開発

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

市販化

生産 品目：ブドウ

技術の概要

「モンドブリエ」は、ワイン品質が良好な「シャルドネ」にべと病耐病性を有する「カユガ・ホホワイト」を交雑し選抜した白ワイン用の品種である。山梨県果樹試験場が育成し、2016年3月7日に品種登録された。

山梨県における収穫時期は9月下旬～10月上旬である。果皮色は黄緑色で、果房重はやや小振りの170g程度である。糖度は23° Brix程度と高糖度で、酸含量は0.7g～0.8g/100ml程度である。べと病耐病性は片親の「カユガ・ホホワイト」と同程度である。

また、東北地方での試験栽培でも栽培性に問題がなく、耐寒性があると判断されている。

ワインは香りが豊かで、品質検討会では高い評価を得ている。



「モンドブリエ」の結実状況

導入の留意点

・平棚への誘引作業は慎重に行う

垣根栽培、平棚栽培は共に可能であるが、生育初期の新梢が欠けやすいため、平棚への誘引作業は慎重に行う

その他（価格帯、改良・普及状況、適応地域）

●普及の状況

全国 80a（2021年度）

●適応地域

醸造ブドウ栽培が可能な地域

効果

◎ブドウべと病に耐病性を持つ

べと病に対する農薬の軽減が期待できる。

ただし、他の主要病害に対する感受性は対照品種の「シャルドネ」や「甲州」と同程度であるため、定期的な病害虫防除は必要である。

関連情報

日本ブドウ・ワイン学会誌(2014), 25:2, p45-46
山梨県果樹試験場研究報告
第15号(2017), p1-12

